

## 題 目 フサオマキザルにおける第三者社会的評価形成・更新・統合

氏 名 塚原弓乃

指導教員 瀧本彩加

本研究では、Anderson et al. (2013a) の手続きをもとにして、フサオマキザルを対象に、見知らぬ実験者が継続して一貫した行動をとる場合の評価形成過程、それまで一貫していた行動とは逆の行動をとるようになった場合の評価更新過程、また、行動を元に戻した場合における評価の統合の有無を探索的に検討した。サルは、見知らぬ実験者（以下 E2 とする）が見知った実験者（以下 E1 とする）の要求に応じて手助けする場面を観察する（Helper 条件）か、E2 が E1 の要求を拒んで手助けしない場面を観察した（Non-helper 条件）。その後、サルは E1 と E2 のどちらからエサを取るかを選択した。なお、サルは、Helper 条件先群では、Helper 条件、Non-helper 条件、Helper2 条件の順に、Non-helper 条件先群では、Non-helper 条件、Helper 条件、Non-helper2 条件の順に、9 セッションずつ連続して参加した。その結果、Helper 条件先群では、E2 が一貫した行動を継続するとき、Helper 条件では、セッションが進むにつれ、E2 選択率が有意に高くなっていった。つまり、Helper 条件において、E2 への肯定的な評価が形成された。次に、E2 が逆の行動をとると、Helper 条件と Non-helper 条件の間で選択傾向が有意に変化したが、Non-helper 条件と Helper2 条件の間では有意差は見られなかった。つまり、Helper 条件と Non-helper 条件間で評価の更新が見られた。最後に、E2 が行動を元に戻すと、Helper 条件では、セッションに伴い、E2 選択率が有意に高くなっていったのに対して、Helper2 条件では E2 選択率は有意に変化しなかった。つまり、Helper 条件よりも Helper2 条件の方が E2 への選好が弱くなっており、Helper 条件・Non-helper 条件での評価が Helper2 条件での評価を小さくし、評価が統合された可能性がある。一方、Non-helper 条件先群では、すべての条件において、セッションに伴う E2 選択率に変化が見られず、条件間での選択率の変化の差も見られなかったため、評価の形成・更新・統合は確認できなかったということになる。